

登録コード	L1732200		開講年度	2026			
担当教員	佐藤 真紀 他			副担当	豊岡 康史・新津 健一郎		
授業科目	歴史学方法論基幹演習Ⅱ						
英文授業名	Learning Method of History:Basic SeminarⅡ						
授業タイトル	歴史学方法論基幹演習（外国史）						
単位数	2	対象学生		講義期間	前期	曜日・時限	木曜・2時限
講義室	人文第2講義室		遠隔授業科目		読替科目	読替科目は履修案内を確認すること	
信大コンピテンシー	非該当						
授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素				⇔	【授業の達成目標】	
	2022Lカリ, 2021Lカリ						
	【2022年度以前カリ対象】自明とされる事柄に対し、深くその根拠を問い直し新たな認識を構築できる思索力				⇔	歴史学の方法論についての理解をもとに、学術論文の内容を正確に把握できるようになる。	
	2026Lカリ, 2025Lカリ, 2024Lカリ, 2023Lカリ						
	【2023年度以降カリ対象】人文学部人文学科の学士（文学）の称号にふさわしい基礎学力と専門的学力が身についている。【思索力・受容力・批判力】				⇔	歴史学の方法論についての理解をもとに、学術論文の内容を正確に把握できるようになる。	
授業で学べる「テーマ」	その他						
全学横断特別教育プログラム							
授業の概要	歴史学にまつわるレクチャーを通じて、歴史学の基本的な考え方を理解し、それらを踏まえて、指定の学術雑誌に掲載される論文のレビューを通じて、歴史学の方法論を体得する。						
授業計画	第1回 ガイダンス 第2回 歴史学の方法論（1） 歴史と歴史学のあいだ 第3回 歴史学の方法論（2） 史料のあり方・研究のありかた 第4回 文献検索の方法（1） 『回顧と展望』 第5回 文献検索の方法（2） オンラインデータベース 第6回 学生による論文の批評・プレゼンテーション（1） 第7回 学生による論文の批評・プレゼンテーション（2） 第8回 学生による論文の批評・プレゼンテーション（3） 第9回 学生による論文の批評・プレゼンテーション（4） 第10回 学生による論文の批評・プレゼンテーション（5） 第11回 学生による論文の批評・プレゼンテーション（6） 第12回 学生による論文の批評・プレゼンテーション（7） 第13回 学生による論文の批評・プレゼンテーション（8） 第14回 学生による論文の批評・プレゼンテーション（9） 第15回 総括 後期の研究室振分用レポートの説明 定期試験なし						
成績評価の方法	各個人の報告（50%）および毎回の発言内容（50%）から評価する。						
成績評価の基準	授業中の討論を通じて理解度を測り（20%）、自分の主張をどれだけ客観的に行っているか（10%）、他の人の理解を得られる論理的な発言か（20%）をみる。また、プレゼンテーションの内容がどれだけ客観的、論理的であるか（30%）、理解し組み上がっているか（20%）を総合的に判断する。各判断基準は以下のとおり。 ●理解度：テキスト内容・自らのプレゼン内容などを概ね把握できていれば「その水準にある」とし、内容をふまえてさらに踏み込んだ発言があれば「卓越している」と評価する。 ●客観性：自らの主張に際して、三人称を用い、感覚的な表現を排して、一般化が可能な論理を用いることができていれば「その水準にある」と評価する。 ●論理性：自らの主張に際して、破綻なく議論を組み立てられていれば「その水準にある」と評価する。						
事前事後学習の内容	参考文献のほか、関連する文献・論文を積極的に自分で探して読むこと。						
履修上の注意	西洋史・東洋史の研究室を志望したものは「Ⅱ」を登録・履修すること。 無断欠席は一切認めない。指名しても発言がない場合は出席としてカウントしない。						
質問、相談への対応	担当教員がメールで受け付ける。 佐藤真紀 (maquis@shinshu-u..ac.jp) 豊岡康史 (toyooka@shinshu-u.ac.jp) 新津健一郎 (keniitsu@shinshu-u.ac.jp)						
教科書	指定しない。						
参考書	桃木至朗ほか編『市民のための世界史』大阪大学出版会、2014年 東京大学教養学部歴史学会編『歴史学の思考法』岩波書店、2020年						